

## 更なる飛翔を願って

一般社団法人日本病院薬剤師会  
会長

木平 健治 Kenji KIHIRA



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えることとお慶び申し上げます。また、日頃より日本病院薬剤師会（以下、日病薬）の運営にご理解とご協力を賜り、感謝申し上げます。

平成28年は、熊本地震が発生し一日も早い復興を願うと共に、多くの都道府県病院薬剤師会の皆様に災害支援をいただきましたことに感謝申し上げます。リオデジャネイロのオリンピックおよびパラリンピックにおける日本人選手の活躍や、大隅良典先生のノーベル生理学・医学賞の受賞などが明るい話題として記憶に残っています。また、夏の参議員選挙では薬剤師議員・藤井基之氏が当選されました。一方、高額医薬品の問題、敷地内薬局の問題、北海道への台風の度重なる直撃など、何かと話題の多かった1年だったかと思えます。

平成28年度の診療報酬改定では、Ⅰ：地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化、連携に関する視点、Ⅱ：患者にとって安心・安全で納得できる効果的・効率的で質の高い医療を実現する視点、Ⅲ：重点的な対応が求められる医療分野を充実する視点、Ⅳ：効率的・適正化を通じて制度の持続可能性を高める視点が、4つの大きな視点として示されました。薬剤師の関係する話題としては、特に、地域包括ケアシステムや「患者のための薬局ビジョン」・「かかりつけ薬剤師・薬局」の話題が印象に残っています。そのようななかで、病院薬剤師の関係では、ICU等への薬剤師の配置、抗がん剤の調製に関連した業務の評価、喘息治療管理料2、ポリファーマシー解消のための薬剤総合評価調整加算の新設など、医療安全、連携さらには効率化を視野に入れた診療報酬改定ではなかったかと思えます。

平成28年度診療報酬改定のⅠ：地域包括ケアシステムの推進と医療機能の分化・強化、連携に関する視点で謳われているように、今後、地域包括ケアシステムの構築と病院の機能による再編成などの改革が着実に推進されていきます。来年のことを言うと鬼が笑うと言われるかもしれませんが、ご存知の通り平成30年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年であり、平成29年が非常に重要な1年となります。現在、都道府県で医療計画が策定されていることと思えます。病院薬剤師は、所属する医療機関の地域における機能・位置付けにより業務内容にも大きな影響を受けることが予想されます。従って、所属する医療機関の方向性を十分に把握しておくことが重要であると思われます。チーム医療の一員として薬の専門職として薬剤師の存在が不可欠であるというプライドをもち、今後とも、ほかの医療スタッフとの連携・協働を積極的に推進していただき、医薬品の適正使用と医療安全、すなわち医療の質の向上のため貢献していただけるものと確信しております。一方、地域包括ケアシステムにおいて病院薬剤師が医療連携をどのように進めていくのかは重要な課題の1つです。そのほかにも多くの課題はありますが、次回の改定が病院薬剤師の明るい未来のために夢のある改定となるよう、日病薬として組織を挙げて頑張りたいと思っておりますので、皆様の一層のご支援を改めてお願い申し上げます。

酉年の今年が、会員の皆様の更なる飛翔の年となることを祈念申し上げます。